

「小学校のあり方について」陽南校区懇談会

- 1 日 時 令和4年2月27日(日) 14時00分～15時30分
- 2 場 所 上市町文化研修センター 3階大会議室
- 3 参加者 28人(会場参加25人・オンライン参加3人)
- 4 出 席 中川町長、小竹副町長、牧田教育長、中村総務課長(司会)、
碓井企画課長、平井教育委員会事務局長
- 5 概 要 次のとおり

(1) 開会挨拶(中川町長)

2年前に、私は、「今の小学校のあり方がこれでよいのか」「皆で議論しよう」と発言した。

昨日の新聞に、日本の年間の新生児が初めて85万人を割り、10年前と比べて23万人減少したという記事が掲載された。また、先週、大学生を対象としたアンケートの結果が発表され、結婚したくないと回答した人の比率と子供をほしくないと回答した人の比率が、男女とも、いずれも過去最高とのことであった。

上市町で昨年1年間で生まれた赤ちゃんは70人、小学校6校で1校あたり11人程度の人数となっている。一昨年も、同様の状況である。近年は、コロナ禍の影響も受け、(出生数が従前に比べ)20人以上も減っている。

白萩西部小学校では、(児童数減に伴い生じる)複式学級の解消のため、町単独で教員を確保したが、今後、他の学校でも同様の事態が生じうる。

(ある学校の)ある学級では、児童は5～6人という状況であり、これが子供達にとって本当によい教育環境なのか。一定数での競い合う環境も必要なのではないか。

小学校のあり方についての私の考え方としては、「小学校の統合はやむなし」という立場で(昨年)話をさせていただいた。

上市中央小学校は建て替えの時期を迎えており、仮に統合を考える場合においては、どのような規模・形態の学校とするか、あわせて議論していく必要がある。皆さんと一緒に考えていきたい。

この問題を判断する材料として、3つの立場がある。一つは先生の立場、すなわち教える立場としての学級の適正規模、二つ目は地域の皆様の思い、三つ目は保護者の皆様の思いがある。

本日は、ご出席された方一人ひとりの思いをお聞きしたい。

(2) 説明「小学校の適正規模等への見解他」

牧田教育長、平井教育委員会事務局長より別紙資料及びスライドに基づき説明

町長より補足

- ・学校の統廃合の前に人口増対策を進めるべきではないかという御意見をいただいております、もっともなことと考える。しかし、日本全国で少子化が急速にすすんでおり、町もいろいろな人口増対策（陽南・白萩町営住宅の建設、陽南小・白萩西部小の特認校化（校区外からの通学可）等）を行ってきたが、非常に難しい状況にある。
- ・（説明にあった）水橋地域の学校再編については、地元の自治振興会から「統合してください。」という申し出があり、それに基づいて富山市が計画している。町では、今のところ、地域からそうした意見を頂いていないので、私の方から議論の場をつくらせていただいた。

(3) 質疑応答

発言者①

（説明の例で）小学校1年生と2年生で複式学級を組んだ場合、翌年度にそれぞれ2年生、3年生となった上で複式学級となるのか。新しく入ってきた1年生はどうなるのか。

教育長

その年度の1年生と2年生をあわせて8人を越えなければ、複式学級を組むことになる。そうでない場合は、1年生は単独の級となり、2年生と3年生で15人を越えない場合に複式学級を編成することになる。

発言者②

今の例で、1年生と2年生が複式学級を組んだ場合、3年生はどのような扱いとなるのか。

教育委員会事務局長

（今の例では、）3年生と4年生の合計が15人を越えなければ、複式学級を編成することとなる。複式学級は、下の学年から順番に複式学級になるかをたどっていく形となる。

発言者③

私自身は、陽南小学校を存続してほしいと考えている。

地域において、これから生まれるであろう子供の数を増やしていくための取組を進めていくべきと考える。陽南町営住宅の第2期工事を行う考えはないか。若者や子育てに関する予算を十分にみていただきたい。また、結婚して、家を持ちたいと考える若者のために、上市町で住むための対策を講じていただきたい。さらに、県外からの移住、特に東京など都会

に住む人を町へ引っ張るための施策を行うべき。

それから、今後、小学校のあり方についての協議を、各校区において誰が担っていくのか。区長会が行うのか、それともその他の各種団体の関係者や保護者等を集めて協議するのか、いずれにせよ、協議会のような組織を立ち上げ、地区住民で協議する機会をつくってほしい。

町長

今後のことについては、各校区の懇談会を一通り終えた後で考えさせていただきたい。本来であれば、(この懇談会を)各地区へ出向いて行いたかったが、新型コロナウイルスの感染が拡大傾向にあり、密を回避する観点から、この会場での開催とさせていただいた。お許しいただきたい。

町外からの転入を増やす取組として、新年度予算において、新築住宅の取得に対する助成を大幅に見直すことを見込んでいる。

- ・町外からの移住者の住宅取得 100万円助成
あわせて蓄電池付太陽光発電システムを設置した場合 25万円を加算
中学生以下の子供がいる場合 一人につき 20万円を加算
- ・町内者に対する住宅取得の助成についても見直し

また、学校給食については、県下で最も安い保護者負担で、上質な給食を提供している。陽南小学校児童に係る給食費については、一人当たり2,400円を毎月助成し、実質的な保護者負担を軽減している。

インフルエンザワクチンの接種については、高校生まで一人あたり3,000円を助成しており、小学生は2回接種をあわせて6,000円を助成している。

子育て支援策については、女性の目線で見直すための研究会を立ち上げているが、町外のメンバーからは、上市町の支援策は他市町村と比べても優れているという評価をいただいている。こうした分野についても、引き続きしっかりと対応してまいりたい。

発言者④

家を新築しようとしていた友人が、上市町で新築したかったが、良い土地が見つからず、立山町で住むことを決めた。上市町でよりよい子育てをしたいという思いは、皆同じだと思う。

(小学校の問題については)保護者だけの、原則、全員参加による説明会を開いてほしい。全員参加の場でなければ、緊張して意見を言えない方もいると思うので、そうした機会をつくってほしい。

発言者⑤

子供の数を増やす取組を進めるべきという御意見があったが、私もそ

のとおりだと思う。町の取組について説明をいただいたが、現状にまかせているという印象を受ける。子供を集めるための戦略が必要ではないか。子供を増やすための、人口を維持し、流出させないための取組が必要と考える。小学校がなくなれば、その地域に住もうとする人が居なくなってしまう。上市町をどうしていくのかを見据えた議論をしていく必要がある。

あと、陽南町営住宅については、人口増に資するものではあるが、子供を増やすという観点でみると、活用しきれていないと感じる。

町長

上市町で良い土地が見つからなかったとのことだが、良い土地とはどのような土地かということについては（答えに）個人差があるので、町からの答えは差し控えたい。

子供を集める戦略を立てるといふ御意見について、大事なことだと思う。これまでの取組に、結果的に不十分な点があったとも言える。新年度予算においては、住宅取得の助成等関連施策について、そうした観点も含めて見直しをさせていただいた。これらの施策は、すぐに人口増につながるということはありませんが、少なくとも、他市町村との比較において、上市町への移住を促進する判断材料に結びつくものと考えている。

発言者⑥

個人的な意見として、複式学級は絶対にやめていただきたい。子供の担任の先生が産休のため不在で、他の先生がカバーしてくださったが、できれば、担任の先生はずっといてほしい。複式学級になると、他の学年と担任の先生を共有しなくてはならない。そうなってしまうのであれば、児童が多数いる学校に（子供を）通わせたい。

（仮に）他の学校に通うこととなる場合、スクールバスの運行時間について心配している。現在は、午後6時の放課後児童クラブ終了後に迎えるバスが来ているが、同様に対応いただくことができるのか。また、学校が変わった場合は、制服や体操服の取扱はどうなるのか、そうした具体的なことが気になる。

教育委員会事務局長

スクールバスについては、統廃合、再編等が行われた場合の小学校の位置によって状況は異なるが、学校から（徒歩通学の目安である）2～3キロメートル圏外の地域が生じる可能性はある。現在、上市中央小学校においても、弓庄地区が該当し、バス通学が行われている。そうした地域については、スクールバス等何等かの手段が必要と考えている。保護者に負担をかけないように、地域の要望を聴きながら、対応を進めていく必要がある。

複式学級については、白萩西部小学校において、複式学級に該当する学年が生じているが、2学年を1人の先生で担うことのないよう、県から派遣を受けた講師を充て、解消を図っている。これまでは、町が単独で複式学級解消のための講師を探し採用していたが、現在、町単独で探すのは困難な状況にあり、今年から県に派遣をお願いしている。

お話しのとおり、陽南小学校においては、現在教員の産休・育休が生じているが、代替の教員が見つからない状況にある。そうした場合は、教務主任として配置されている教員が当該学級の担任を務める等の対応をとることとなるが、こうした対応も今後難しくなると思われる。産休等代替教員の派遣については、県下でもすべて対応できているわけではない。

今後も、複式学級の解消に出来る限り努めていくが、必要となる教員の数が多くなるにつれて、その確保自体が困難であるということをお聞きしたい。

制服、体操服の取扱については、統廃合の方法によっても変わってくる。例えば、比較的大規模な学校に小規模な学校が編入される場合、校名等を従来のものから引き継ぐのか。あるいは、複数の学校を統合する場合、校名や制服等も新しくするのか。それは、これからの議論のなかで考えていくことになるであろう。

発言者⑦

教育を受けさせる親としては、複式学級では十分な教育を受けさせてあげられないのではないかと考えている。

学校統合の件、前向きに進めて頂きたい。

発言者⑧

大規模な学校へ（小規模の学校を）集約するという前提で話がされているように感じるが、小規模校は小さいなりの特色を出して子供達を育てていくという方法もあるのではないかと。

複式学級については、私は捨てたものではないと考える。社会に出れば、年代の違う人とコミュニケーションをとることもあるが、そうした環境への適応を養うこともできるのではないかと。先輩が後輩を指導していくという効果も期待できる。私は、複式学級に反対ではない。ただ、（複式学級を担う）教員をどのように教育していくか、掘り下げて議論いただければと考える。

教育長

特色ある学校づくりについては、それぞれの学校がそれぞれ知恵を出し合い、地域の人たちにも御協力をいただきながら、取り組んでいるとこ

ろである。これからも、こうした取組を継続していかなければならないと
思っている。

複式学級についてであるが、学校制度が出来た当初は学校に通う子供の
数が少なく、複式学級でこと足りていた。1学級1年生から3年生まで
で構成された例もある。しかし、御指摘のとおり、教員がこの複式学級で
どのように指導していくのか。富山県では、毎年約350人の教員が新規に
採用されるが、複式学級で上手に指導できる教員を複数確保することは
難しい。もう1点、同一学年であればそのなかでお互い競い合い、向上心
につながることもできるが、異なる学年の場合、上級生が優れ、下級生が
劣ることが当たり前になって、切磋琢磨という感覚が培われにくいと考
える。また、社会性を身に着けるためには、小学校での教育が大事である
が、上級生・下級生との関わりよりも、同級生との関わりが難しいと感じ
る子供もいる。

教育委員会としては、教員の確保と子供の成長の観点で、複式学級でい
くのは難しいと考える。

(4) 閉会挨拶（中川町長）

10年間近く行っている小規模特認校については、入校促進に十分につな
がらず、御期待に沿えず反省するところである。

複式学級については、保護者の思いが一番大切である。白萩西部小学校で
複式学級解消のための教員を採用しているが、今後他の学校でもこうした問
題がでてくる。町単独で教員を確保することには限界があり、（今年から派
遣を依頼している）県においても大変な努力を頂いている（県下で担任がい
ない学級は、富山市だけでも40学級ある。）。教育をめぐるっては、教員の負
担の軽減も図らなければならない、また、子供への教育もしっかり提供して
いかなければならない等、大変厳しい状況にあるが、住民の期待にこたえら
れるよう努力してまいりたい。

この後、残りの校区での御意見をお聞きし、議会とも相談して、審議会に
諮る体制で臨んでいきたい。また機会があれば、御意見を賜りたい。

以上